

塩田地区農家女性のアンペイド・ワーク
——J A信州うえだ女性部塩田支会時間利用調査
年間平均活動時間単純集計結果から——

Farmer's wives' unpaid work: the case of
shioda area in Ueda, Nagano.

古田 睦美*
Mutsumi Furuta

諸藤 享子**
Kyoko Morofuji

1. アンペイド・ワーク論の射程と塩田
調査のねらい

地域社会や家庭には、人々の生命と生活を支えるために必要な膨大な労働が存在する。それらはコミュニティワーク、ホームワークないし家事、ドメスティックワーク、ケアワーク、ボランティアワークなどによれば、人間生活にとって不可欠であるにもかかわらずその価値は社会的にも経済的にも低く見積もられてきた。このような労働は、分類上インフォーマル・セクターの労働とされ、ほとんどが著しい低賃金ないしは無償労働（アンペイド・ワーク）であり、その多くがこれまで女性によって担われてきた。このことは、男女間の著しい経済的不平等および社会的地位の不平等の一因となってきたと同時に、様々な社会問題を派生させた。

男性と女性に固定的なジェンダー分業を押し付けることによって、ジェンダーとして「男性化」した生活センスのない企業人が社会の中心を担うことになり、環境に負荷を負わせる開発型の経済や、人権感覚、社会的弱者への配慮、相互扶助と

いった感覚の欠如した市場化が促進されてきたことや、結果としての少子高齢化も問題となっている。人類が生存しつづけられる社会システムを構築し、豊かに安全に暮らしていくためには、現在の社会構造をその基盤となっているジェンダー分業のところから再編成することが政策的に焦眉の課題となっている。

国際世論においては、1975年の国際女性年以降、社会や開発に対する女性の見えざる貢献を測定・評価する方向が示され、80年代以降、ジェンダー統計の整備、女性の特にアンペイド・ワーク（無償労働）の貢献を測定するための具体的な措置の必要性が説かれるようになった¹⁾。こうした流れを受けて、日本政府も「男女共同参画2000年プラン」のなかで、「無償労働の数量的把握の推進」および国民経済計算体系を補完する「介護・保育サテライト勘定」の整備の検討に言及するに至った²⁾。

ここで、アンペイド・ワークとは何かというと、第4回世界女性会議の「行動綱領」によれば、アンペイド・ワークとは二つの領域の労働からなる。一つは経済活動とみなされながら過小評価されるかまったく把握されない労働（農業、食

*助教授

**科目等履修生

糧生産、家族経営による市場向けおよび自家消費の物資やサービスの生産など)、もう一つは世帯内や地域社会での無償労働(育児、介護、環境保護、ボランティア活動など)である。

アンペイド・ワーク論の目的は、第一に、これまで見えざるものであった上記のような労働を測定して可視化することであり、それによってアンペイド・ワークを含めて、人間社会が成立していくために必要な労働の総量を把握することであり、第二に、ペイド・ワークとアンペイド・ワークを、地域社会や家庭といったインフォーマルセクターと企業などのフォーマルセクターにおいて、男女が平等に担うことができるよう社会政策を媒介に社会システムを再編成することである。

女性労働研究の難しさは、女性の労働が既存の概念でいう「生産」と「消費」の境界をまたがっている場合がみられること、あまりにも低賃金ないし無償であるためにこれまでそれが経済活動として捉えられてこなかったこと、女性は一日のうち様々な労働に複合的に就労している場合が多いこと、同時に二つ以上の労働を行っている場合があることなど、男性の働き方を典型とする既存の「経済」概念や統計的な手法では、捉えられなかったところにある。

「経済」と「消費」、ペイドとアンペイドの領域を行き来する女性の労働をアンペイド・ワークをふくめて全体的に把握するためには、まず、労働の項目自体を体系的に洗い出すこと、それにしたがって、活動を分類すること、および「経済活動」かどうか判別がつきにくいものも含めて労働時間を正確に計測することが求められている。

そこで、今回は女性の複雑な働き方の全体像を捉えるために国際的な研究の中で開発された「時間利用調査(Time Use Survey)」の方法論をふまえて個人の一日の活動すべてを時間を追って記述してもらい、コードごとに分類集計する方法³⁾を用いて、上田市の農業地域である塩田地区において、実証調査を行った。塩田地区は、8割強が兼業農家であり、水稻、果樹、花卉、野菜栽培が多く、1ヘクタール未満の小規模複合経営の自営農家が一般的な、長野県にみられる平均的な農業地域である。

本調査に先立って、農家女性の行っている労働

の項目を洗い出し、塩田地区の農業のパターンを把握して現代の農家女性の働き方に対応した調査を設計するために、入念なパイロット調査を行った。

2. パイロット調査の概要と結果

(1) パイロット調査の概要

パイロット調査の目的は、①農村における女性の活動の項目を拾い上げ、できる限り網羅的なコード表を作成する、②塩田地域における各季節の農業労働を網羅するように調査期間を設定する、という二点であった。

パイロット調査は1998年8月から1999年1月にかけて、農家女性5人、自営農業の夫婦一組、関係行政機関担当者、農業関連団体関係者を対象に行われた。農家女性対象者の選定にあたっては、塩田地区の農産物の構成にしたがって、米、果樹、花卉、野菜生産農家が含まれるように配慮した。また、家事、社会的活動にかんしては、介護および育児といった特定の家族のニーズに左右される労働項目や、塩田地区に特有の社会的活動にも注意した。

(2) 労働項目の整理および調査期間の確定

パイロット調査をふまえて、洗い出した活動項目を整理し、21のコードに分類し、それらをさらに「生理的活動」「農業にかかわる仕事」「農業以外の仕事」「家事」「社会的活動」「その他」の6つのカテゴリーにまとめ、これを大分類とした。詳細については表1を参照。

21のコードのうち、「10 生産活動の一部の家事」、「11 自家消費用の生産的家事」、「15 『家』のための家事」、「18 生産にかかわる自主的な活動」などのコードを設定したことが農村においてみられるアンペイド・ワークを把握するためにとりわけ特徴的であるといえる。

また、「農業にかかわる仕事」の内部を、とくに、自営農業内外のジェンダー分業に着目して3～7の5つのコードに分けたことが本調査の特徴といえる。

調査の期間は、パイロット調査から、農業調査として最低限四季をフォローすることが必要であると判断し、大きく冬期、春期、夏期、秋期の4

表1 活動分類コード表

	コード	活動の種類	活動内容
生理的活動	1	睡眠	睡眠
	2	身のまわりや健康に関する活動	着替え、整髪、食事、トイレ、入浴、洗髪、美容活動、健康づくり、散歩、健康診断、休養、自分の受診のための通院等、
農業にかかわる仕事	3	自営農業の経営管理的活動	作付計画、出荷計画、顧客名簿管理、農業日誌の記入、伝票・帳簿付け、確定申告の書類整理、パソコン操作、農業資材（農薬・種・苗・肥料、機械・資材等）の注文・管理、共済等の手続き、資金繰り、人足の手配、段取り・調整等
	4	自営農業の主要な農作業	水稲一耕起、代かき、水管理、育苗、田植え、稲刈り、脱穀等 果樹一整枝・剪定、摘花、受粉、摘芽、房作り、袋掛け・除袋、葉摘み、玉回し、収穫、選別、箱詰め等 花き一育苗、本ば準備、定植、摘芯、摘芽、蕾取り、花切り、選別、箱詰め等 野菜一育苗、耕起・畔立て、定植、収穫、選別、箱・袋詰め等 かん水、病虫害駆除、除草、施肥・追肥、出荷、各種農業機械の運転・使用等
	5	自営農業の上記以外の作業	ハゼ掛け、藁敷き、ネット掛け・はずし、宛名書き等の荷造り・発送準備、運搬、農業資材の準備・片づけ作業、着替え、移動、田畑での休憩等
	6	雇用関係にある農作業	農事法人などでの雇用農業労働、パート農業労働、季節農業労働等
	7	上記以外の農作業	近隣や親戚の農作業の手伝い、手間替え出、ゆい等
農業以外の仕事	8	勤務の仕事	会社などでのフルタイム・パートタイムの勤務、通勤、残業、日雇い・季節雇い等の不規則の雇用労働、仕事の準備・後片づけ 農事法人などでの農作業以外の勤務等
	9	農業以外の自営業	小売店の店番、配送等農業以外の家業の手伝い、製造業等自営業の家族就労、内職、代理店やネットワークビジネスを含む自営業の経営等
家事	10	生産活動の一部の家事	家族以外の働き手のためのお茶・お菓子だし、田畑や工場での小屋や昼食・漬け物の準備、家族以外の従業員の作業着洗濯等
	11	自家消費の生産的家事	家庭菜園の世話、自家用農作物・自家消費用家畜（養鶏、採卵を含む）の世話、収穫、加工、漬物・味噌・ジャム等の自家消費加工食品作りと保管、管理等
	12	育児・教育活動	授乳、おむつ交換、入浴の世話、離乳食の用意、おやつ作り、子供の健康管理、検診、予防注射の付き添い、遊び相手、勉強をみる、その他の育児活動等 習い事・保育園・塾・学校・病院への子供の送迎等
	13	介護	介護を要する家族・親族への世話、話し相手、病院・デイサービス等への送迎や付き添い、リハビリの介助、介護関連の事務手続き等
	14	その他の家事一般	炊事、食事の用意・後片付け、洗濯、ゴミ捨て、ペットの世話、洗濯、縫い物、アイロンかけ、衣類の整理、買い物（生協・通販注文含む）、家族の世話、家計簿付け、庭の手入れ、車の手入れ、住宅周りのメンテナンス、銀行や役場の用事等
	15	「家」のための家事	法・盆・正月など「家」の行事のための作業、墓・仏壇の世話、親戚との付き合い、冠婚葬祭等

社 会 的 活 動	16	地域活動	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の会合・行事参加・その準備・片づけ—自治会、部落会、育成会、PTA、消防団、青年団、若妻会、婦人会、老人会等 ・防災訓練、運動会、球技大会、敬老会、文化祭等 ・地域生活にかかわる共同作業 ・除雪、土手・河原・山の草刈り、共有林手入れ、道普請、お宮幟立て、下排水掃除、ゴミ拾い、分別ゴミ収集の立ち会い等 ・農作業にかかわる共同作業—セギ払い、用・排水路の手入れ等 ・行政から依頼された仕事—農業委員、農村生活マイスター、民生委員等
	17	組織・団体による活動	<ul style="list-style-type: none"> ・農業関連団体の会合や行事 ・農協女性部、生産部会、農協生活補助員、JA祭り、講習会、旅行等 ・農業以外の生産団体の会合や行事、商工会婦人部、各種経営者会議等講習会、旅行等 ・生協関連の会合や行事 ・共同購入の手配や計算および諸連絡、グループ活動、勉強会、生協祭り等 ・政治団体にかかわる活動 ・政党後援会の会合や行事等
	18	生産にかかわる自主的な活動	直売所や店番や会計処理、計画立案や交渉・会議などの運営のための諸活動、消費者との交流行事、生産者グループの視察や研修および交流、技術講習会、生活改善グループの勉強会や料理講習会、共同で行う農産物の加工（味噌・醤油・漬け物・豆腐づくり）作業等
	19	地域福祉にかかわる自主的な活動	「まわたの会」や「たすけあいの会」等のボランティアグループの活動、介護、朗読、在宅高齢者のための食事会開催、在宅要介護者の介助、デイサービスセンターの活動（入浴介助、食事補助、話し相手、施設の清掃）等、ヘルパー講習会への参加などの福祉活動の研修会等
	20	その他の自主的な活動	<ul style="list-style-type: none"> ・様々なテーマの学習会や集会の運営・参加 ・環境・教育・文化・地域等 ・趣味のグループ活動 ・ゲートボール、マレットゴルフ、ウォーキング、カラオケ、踊り、大正琴など ・スポーツやレクリエーション等 ・無尽や講、宗教活動、住民運動、社会的公正を求める運動等
その他	21	余暇活動	趣味、読書やテレビ視聴等、家族団らん、旅行、仕事や「家」以外のプライベートな行き来や会食、友人との交際等

期に分けた。各季節のうち、パイロット調査から得られた、塩田地区の主要な作物についての農業労働をできるだけ網羅するように調査期間を定めた。（詳細については次項で述べる）。

3. 時間利用調査集計結果から

(1) 調査の概要と方法

パイロット調査をふまえて、JA信州うえだ女性部塩田支会の会員全員を対象に時間利用調査を行った⁴⁾。これは、塩田地区において農業に携わる女性をなるべく偏りなく広範に調査するために適切な対象者であると考えたからである。また、自営農業世帯内部のジェンダー分業を把握するという目的から、夫がある場合には、夫の回答も同時に求めた⁵⁾。

今回の調査では、パイロット調査をふまえて作成したコード表を添付し、行った活動に該当するコードの番号を自ら記入してもらい、プレコード方式を採用した⁶⁾。

また、女性の働き方の特徴として、「子どもをみながら農作業や家事をするといった、いわゆる「～ながら仕事」があることから、本調査では、「主にしていたこと」と「同時にしていたこと」の両方を記入してもらい、それぞれ「主行動」と「従行動」として集計した。

四季ごとの調査期間は、約2週間とし、期間内で「農作業のあった日」と「農作業のなかった日（ないし比較的少なかった日）」を一日づつ計二日選んで、起床から就寝までの活動記録を留め置き記入方式で記述してもらった⁷⁾。配布・回収に

については各支部長のご協力を得た。

調査の対象者数、調査期間および回収率は次のとおり。

<冬期> 調査期間 1999年2月1日～2月15日、調査対象世帯数174、調査対象者数(女性)174、回収数155(回収率89.1%)、有効サンプル数(女性)276日分、(男性)202日分。

<春期> 調査期間 1999年5月15日～5月30日、調査対象世帯数174、調査対象者数(女性)174、回収数141(回収率81.0%)、有効サンプル数(女性)269日分、(男性)190日分。

<夏期> 調査期間 1999年8月15日～5月31日、調査対象世帯数174、調査対象者数(女性)174、回収数136(回収率78.2%)、有効サンプル数(女性)250日分、(男性)183日分。

<秋期> 調査期間 1999年9月23日～10月24日、調査対象世帯数125、調査対象者数(女性)174、回収数125(回収率71.8%)、有効サンプル数(女性)235日分、(男性)177日分。

(2) 年間平均活動時間(大分類)

年間平均生活時間を大分類別にみると、表2にあるように、「睡眠」時間を含む「生理的活動」が11時間半強ともっとも多く、次いで「家事」時間が4時間弱、「農業にかかわる仕事」時間が2時間半弱、「農業以外の仕事」が約2時間16分、「社会的活動」時間が1時間強の順であった。

表2 年間平均生活時間(大分類)

単位:分

	男女計	女性	男性
生理的活動	696.35	670.70	731.48
農業にかかわる仕事	144.07	120.78	175.96
農業以外の仕事	136.13	98.02	188.32
家事	233.90	332.85	98.37
社会的活動	66.70	72.39	58.91
その他	149.79	132.05	174.09

男女別にみても、女性で多かった活動は「生理的活動」、「家事」、「農業にかかわる仕事」、「農業以外の仕事」、「社会的活動」の順であったのに対し、男性では「生理的活動」、「農業以外の仕事」、「農業にかかわる仕事」、「家事」、「社会的活動」の順であった。男女差に着目すると、「生理的活動」では60.77分、「農業にかかわる仕事」では55.19分、「農業以外の仕事」では90.29分男性の方がそれぞれ多く活動しており、「家事」では234.51分「社会的活動」では13.47分、女性の方が多く活動していることが分かった。とくに「家事」時間の男女差は著しく、女性は男性より、平均して1日あたり234.48分(4時間近く)も多く家事労働を行っていることがわかった。

(3) 年間平均活動時間(コード別)

① 「生理的活動」

年間平均活動時間をコード別にみても、「1 睡眠」時間の年間平均は7.5時間あまりであった。男女別にみると、女性のほうが一日あたり33.09分睡眠時間が短いことがわかった。「2 身のまわりや健康に関する活動」の年間平均は240.96分であったが、男女別にみると女性のほうが27.68分短かった。

② 「農業にかかわる仕事」

自営農業の活動のコードのうち、「3 自営農業の経営管理的活動」は平均すると一日あたり5分未満であった。他方、「4 自営農業の主要な農作業」と「5 自営農業の上記以外の農作業」をあわせて、自営農業の農作業と考えた場合、一日あたりの農作業時間は2時間半近くに及んだ。

これを男女別にみると、「自営農業の経営管理的活動」における性別による時間の格差は少なく、女性も男性と同様に「作付計画」や「帳簿付け」などの経営管理的な活動を行っていることがわかった。これに対して、自営農業の農作業時間の男女差は大きく、男性は女性より一日あたり1時間近く多く自営農業の農作業を行っていることがわかった。

この回答の中には、農作業のなかった日や悪天候の日も含まれているので、農作業を行った人のみの集計結果のほうが実態に近いといえる。そこで、農業にかかわる仕事を行った人のみの年間平

表3 年間平均活動時間(コード別)

単位:分

	男	女	計	女	性	男	性
1 睡眠			455.39	441.42			474.51
2 身のまわりや健康に関する活動			240.96	229.28			256.96
3 自営農業の経営管理的活動			4.45	4.02			5.03
4 自営農業の主要な農作業			110.10	90.33			137.17
5 自営農業の上記以外の農作業			25.61	21.62			31.07
6 雇用関係にある農作業			0.86	1.44			0.07
7 上記以外の作業			3.06	3.37			2.63
8 勤務の仕事			97.82	65.07			142.68
9 農業以外の自営業			38.31	32.96			45.64
10 生産活動の一部の家事			1.82	3.10			0.08
11 自家消費用の生産的家事			47.10	49.45			43.89
12 育児・教育活動			12.49	18.31			4.47
13 介護			6.86	10.23			2.26
14 その他の家事一般			159.34	244.45			42.76
15 「家」のための家事			6.28	7.29			4.89
16 地域活動			19.51	13.07			28.34
17 組織・団体による活動			8.87	12.73			3.59
18 生産にかかわる自主的な活動			6.55	8.13			4.38
19 地域福祉にかかわる自主的な活動			5.33	9.20			0.04
20 その他の自主的な活動			26.44	29.26			22.57
21 余暇活動			149.79	132.05			174.09
不明			13.06	13.19			12.88
合計			1,440.00	1,440.00			1,440.00

表4 年間平均活動時間(コード別、活動があった人のみ)

	性別				男女計	
	女		男		平均値	有効数
	平均値	有効数	平均値	有効数		
1 睡眠	441.42	N=1030	474.51	N=752	455.39	N=1782
2 身のまわりや健康に関する活動	229.28	N=1030	259.96	N=752	240.96	N=1782
3 自営農業の経営管理的活動	53.79	N=77	60.97	N=62	56.99	N=139
4 自営農業の主要な農作業	294.45	N=316	331.67	N=311	312.91	N=627
5 自営農業の上記以外の農作業	100.32	N=222	103.38	N=226	101.87	N=448
6 雇用関係にある農作業	370.00	N=4	50.00	N=1	306.00	N=5
7 上記以外の作業	385.56	N=9	282.86	N=7	340.63	N=16
8 勤務の仕事	465.41	N=144	606.18	N=177	543.03	N=321
9 農業以外の自営業	317.24	N=107	385.62	N=89	348.29	N=196
10 生産活動の一部の家事	46.88	N=68	30.00	N=2	46.40	N=70
11 自家消費用の生産的家事	122.13	N=417	165.87	N=199	136.26	N=616
12 育児・教育活動	143.13	N=132	112.17	N=30	137.40	N=162
13 介護	93.21	N=113	85.00	N=20	91.98	N=133
14 その他の家事一般	250.53	N=1005	99.87	N=322	213.97	N=1327
15 「家」のための家事	115.51	N=65	160.00	N=23	127.14	N=88
16 地域活動	133.27	N=101	201.04	N=106	167.97	N=207
17 組織・団体による活動	148.95	N=88	158.82	N=17	150.55	N=105
18 生産にかかわる自主的な活動	152.31	N=55	173.16	N=19	157.66	N=74
19 地域福祉にかかわる自主的な活動	263.19	N=36	30.00	N=1	256.89	N=37
20 その他の自主的な活動	179.41	N=168	214.80	N=79	190.73	N=247
21 余暇活動	152.14	N=894	202.97	N=645	173.44	N=1539

均時間をみると、「自営農業の主要な農作業」は5時間弱、ついで「自営農業の経営管理的活動」は1時間近く、「自営農業の上記以外の農作業」は1時間半以上であった。(表4参照)

次に、自営農業以外の農業にかかわる仕事の年間平均をみると、「6 雇用関係にある農作業」時間は1分未満、「7 上記以外の農作業」時間はほぼ3分といずれもごく僅かであった。これはこれらの活動を行った人の人数が少ないことに起因すると考えられるので、活動を行った人のみでみると「雇用関係にある農作業」を行った人は、のべ5人、一日あたり5時間弱、「上記以外の農作業」を行った人は、のべ16人、一日あたり5時間半以上であった。人数は少ないものの、時間量は「農業にかかわる仕事」のうち、最も多く、近隣や親族の手伝いの農作業には、時間を融通し合う相互扶助の様子がうかがわれた。

男女別にみると、「雇用関係にある農作業」では1分弱、「上記以外の農作業」では1分未満、いずれも女性が男性を上回っており、雇用関係や近隣・親戚などへの手伝いの農作業は女性の方が男性よりも若干多く行っていることがわかった。

③ 「農業以外の仕事」

「8 勤務の仕事」の年間平均は一日あたり97.82分、「9 農業以外の自営業」の労働時間は38.31分であったが、男女別にみるとどちらも男性が女性を上回った。活動を行ったのみでみると、「勤務の仕事」の年間平均活動時間は一日あたり543.03分(約9時間)、男女別にみると、女性平均は465.41分(約7時間45分)、男性平均は606.18分(10時間強)であった。勤務の仕事を行った場合には労働時間はかなり長く、また、女性より男性の方が長時間働いていることが分かった。次に「農業以外の自営業」を行った人のみの年間平均活動時間は一日あたり348.29分(6時間弱)、性別にみると、男性が385.62分(6時間半弱)、女性が317.24分(5時間と17分あまり)であり、男性平均の方が1時間あまり長かった。

④ 「家事」

「家事」のうち最も多いのが「14 家事一般」で159.34分(2時間半強)、ついで「11 自家消費の生産的家事」、「12 育児・教育活動」、「13 介護」、「15 『家』のための家事」、「10 生産活

動の一部の家事」の順であった。

男女差をみてみると、「その他の家事一般」で201.69分(およそ3時間22分)、「育児・教育活動」で13.87分、「介護」で7.97分、「自家消費の生産的家事」で5.56分、「生産活動の一部の家事」で3.02分、「『家』のための家事」で2.40分、いずれも男性よりも女性の方が長かった。また、女性では最も多かったのが「家事一般」で4時間強、次が「自家消費の生産的家事」49.45分の順であったのに対して、男性では「自家消費の生産的家事」が最も多く43.89分、ついで「家事一般」42.76分の順であった。

「育児・教育活動」と「介護」については、要介護者や子供の有無といった個別の家庭の事情が直接的に関係してくるので、これらの活動を行った人のみの平均時間をみると、「育児・教育活動」の年間平均活動時間は一日あたり137.40分(約2時間20分)、「介護」は91.98分(1時間半強)であった。男女別にみると、男性より女性のほうが平均活動時間が長くなっている。人数で見ると、「育児・教育活動」を行った人の81%、「介護」を行った人の85%が女性であることがわかった⁸⁾。

「生産活動の一部の家事」とは、田畑での農作業の合間にとる休憩時のお茶出し、その準備やかたづけ、作業用の衣服や装備の洗濯など、家業に付随して生じる家事で、その性質からすれば生産活動の一部に位置付けられるべきものである。この「生産活動の一部の家事」を行った人は、のべ70人ほどしかいなかったが、このうちわけは男性2人に対して女性68人(総数の97%)であり、圧倒的に女性によって担われていることがわかった。一日あたりの「生産活動の一部の家事」時間は年平均で46.40分、女性平均で46.88分、男性で30.00分となっており、量的な面でも女性によってより多く担われていることがわかった。

次に、「自家消費の生産的家事」であるが、これは、市場向けではなく、自家で消費するための野菜、家畜の世話、食品の加工などであり、農家の場合、家事労働の中でこのような仕事の占める割合はかなり大きい。「自家消費の生産的家事」を行った人は年間でのべ616人、活動時間は年間平均で一日あたり136.26分(2時間20分弱)であった。男女別にみると、「自家消費の生産的

家事」の一日あたりの活動時間は女性平均122.13分（2時間強）、男性平均165.87分（約2時間46分）であった。「自家消費用の生産的家事」は人数からみると、約68%が女性によって占められているが、時間量の面からみると男性の方が多い。男性がこうした活動をする場合には女性よりも長時間に及ぶ傾向があるといえる。

『家』のための家事を行った人はのべ88人、年間平均活動時間は一日あたり127.14分（2時間あまり）であった。男女別にみると、男性で『家』のための家事を行った人はのべ23人、一日あたりの活動時間は年間平均で160分（2時間40分）、女性はのべ65人、活動時間は115.51分（2時間弱）であった。農業世帯では、家事と考えられる仕事のうちに、親戚との付き合いなどの父系の家のための行事に関連した活動や、墓や墓地の管理など男性の役割と決まっている活動があるために、男性の活動時間が長くなっているものと考えられる。

⑤ 「社会的活動」

「社会的活動」のうち最も多かったのが「20 その他の自主的な活動」、次いで「16 地域活動」、「17 組織・団体による活動」、「18 生産に関わる自主的な活動」、「19 地域福祉にかかわる自主的な活動」の順であった。

男女差に着目してみると、「地域活動」をのぞいて、女性のほうが男性より長く活動しており、その差は多い順に「地域福祉にかかわる自主的な活動」9.16分、「組織・団体による活動」9.14分、「その他の自主的な活動」6.69分、「生産に関わる自主的な活動」3.75分であった。「地域活動」は女性平均よりも男性平均の方が15.27分長かった。これは、「地域活動」に自治会や青年団の行事や、農業委員などの行政から委託された活動といったどちらかという男性の役割とみなされてきた活動が多く含まれていることに起因すると考えられるが、詳しい考察は今後の課題としたい。

「社会的活動」にかんしては、これを行った人の人数が限られているので、実態を正確に捉えるためには活動を行った人のみの集計結果をみる必要がある。活動のあった人のみの年間平均活動時間をコード別にみると、活動を行った人数は、多い順で、「その他の自主的な活動」がのべ247人、

「地域活動」がのべ207人、「組織・団体による活動」がのべ105人となっており、活動時間は多い順に「地域福祉にかかわる自主的な活動」256.89分（約4時間17分）、「その他の自主的な活動」190.73分（約3時間10分）、「地域活動」167.97分（約2時間48分）などであった。「地域福祉にかかわる自主的な活動」を行った人の絶対数は少ないが、活動に携わった場合には一日あたりの活動時間は長いことが分かった。

「地域福祉にかかわる自主的な活動」については、活動に携わった人数が女性のべ36人に対して男性1人であり男女差が著しかっただけでなく、一日あたりの活動時間においても女性平均の方が男性平均を233.19分（4時間弱）上まわっており、地域の福祉活動に対して女性のアンペイド・ワーク（無償労働）が大きく貢献している実態が明らかになった。

「21余暇活動」は年間平均で一日あたり13.06分であったが、男女別では男性の方が多く、その差は42.04分であった。「余暇活動」を行った人のみの集計結果ではその差はさらに大きく、50.83分であった。

4. おわりにかえて — アンペイド・ワークという視点からの若干の考察

ここで、第三者によって代替不可能な「生理的活動」および「余暇その他」を除いて、「農業にかかわる仕事」、「農業以外の仕事」、「家事」、「社会的活動」の合計を「総有用活動時間」とすると、総有用活動時間は年間平均で一日あたり580.8分（約9.7時間）、女性平均で624.04分（約10.4時間）、男性平均で521.56分（約8.7時間）となり、女性平均が男性平均を102.48分（1時間42分あまり）上回っていることがわかる。

男性は、農業で一時間弱、農外就労で1時間半あまり女性より長く働いているものの、女性よりも「生理的活動」時間が一時間強長い。他方女性は農業やその他の賃労働も行いながら家事労働では約4時間、社会的活動では約14分男性より多く活動している。この結果、賃労働や農業労働だけでなく、家庭、地域、社会でのすべての労働をあわせると、女性は男性よりも1日あたり100分あまり長く働いていることになるといえる。これ

に、「従行動」をくわえると、男女格差は更に拡大する。

これらの労働は、国際的な統計上、インフォーマル・セクターの労働にカテゴリライズされていることが多く、また、女性の場合にはとりわけ明確な報酬を得ているケースは少ないとされる。したがって、上に述べてきた女性の労働のほとんどが「インフォーマル・セクター」の労働であり、「アンペイド・ワーク」であるといっても過言ではない。

しかし、より実態を明らかにするために、論を結ぶにあたって若干の考察を加えてみたい。本調査では、回答者が記入した活動のうちのどれに対してどれほどの報酬が支払われたのかを特定することはできないが、時間利用調査を補完するため同一の対象者に対してアンケート調査を行った⁹⁾。この結果によると、まず、「女性の農業報酬」については、「報酬あり」という回答は151人中39人(約26%)であり、そのうち「現物による報酬」が14人(約36%)をしめた。「年収額」を答えた人は11人のみであったが、そのうち9人は100万円以下であり、4人は30万円にも達していなかった。以上から女性の農業労働が何らかの貨幣による報酬にむすびつくのは、著しい低賃金の場合も含めて最大に見積もっても16.5%(25/151人)でしかなく、85%近く(現物報酬を入れても75%近く)がアンペイド・ワークであるといえる。

次に、「農地登記の名義」を複数回答できいたところ、回答のあった126世帯のうち、「夫」「息子」などの男性名義が110人に対して、「妻」「母」「娘」などの女性名義はわずか19人しかいなかった。受給または加入している「年金の種類」については、「国民年金」が最も多く、「農業者年金」は一人もいなかった。これは平成7年の「農業者年金基本法」改正まで一定の農地所有が年金加入の要件だったために土地を所有することのない女性の加入が難しかったことによると考えられる。

「社会的活動の報酬」についても、先に述べたような地域社会に対する女性の大きな貢献にもかかわらず、「手間賃あり」という回答は、「文化サークル」1人、「婦人会」2人、「福祉ボランティア」3人などを教えたのみであった。

結論的に農家女性の労働が予測にたがわず、ほとんどアンペイド・ワークであり、それにとまって社会的保障も十分ではないという実態が明らかになったといえよう。

(2001. 1. 9 受理)

注

- 1) アンペイド・ワークに関する国際的動向の詳細にかんしては、古田陸美「アンペイド・ワーク論の課題と可能性」『アンペイド・ワークとは何か?』藤原書店、2000年を参照。
- 2) 日本においては、総務庁が行っている「社会生活基本調査」の時間的データに基づいて、経済企画庁が女性の無償労働の経済的評価を行った。それによると、91年に女性が行った無償労働は総額99兆円で、女性一人あたりでは年間276万円、97年のデータによると女性一人あたり年間およそ300万円にのぼるとされる(朝日新聞98年 月 日)。しかし、ここに計上された労働項目は、①炊事・洗濯などの家事、②介護、看護、③育児、④買い物、⑤ボランティア活動の5項目のみであること、また、こうした項目の労働時間を賃金に換算する際に、男女格差を内包したままの女性の平均賃金に換算していることといったいくつかの点で、この賃金換算のあり方自体に根本的な問題がある。
- 3) Goldscmidt-Clermont, Unpaid Work in the Household, ILO, 1982. 女性のアンペイド・ワーク研究会編訳『女性のアンペイド・ワーク——国際的調査研究と資料』1995年、東京女性財団参照。
- 4) 調査は、JA信州うえだ女性部塩田支会すべての支部(計19支部)を対象にすすめられたが、結果的に、すでに事実上機能していない支部、途中で協力が得られなくなった支部計3つの支部をのぞく、16支部の会員全員(174世帯)を対象とすることになった。なお、174世帯中、女性会員は174名であるが、そのうち対象となるべき同居の夫の数は正確には不明であり、したがって男性の回答の回収率も確定することはできなかった。なお、調査対象者の平均年齢は(冬期時点)で61.67歳、女性平均は61歳、男性平均は62歳とかなり高齢だった。これは、塩田地区に特異な現象ではなく、むしろ農村の高齢化の実態を如実に表しているといえるだろう。
- 5) 四回の調査を通じて男性の回答は女性の回答数よりも少なかった。この理由としては、今回の調査の趣旨に対し男性よりも女性のほうが関心を持ってくれたこと、および、現在農業に携わっている女性が高齢化しているが、女性のほうが一般に寿命が長いために夫がいないケースが多かったことな

どが考えられる。なお、夫の回答にかんしては、「夫自らが記入するのが望ましい」が、協力が得られない場合には「妻が記入してもかまわない」とした。したがって、男性の回答中には妻が記入したのも含まれている。

- 6) これは、本調査が新しい労働概念に立脚しているために、既存の「仕事」「家事」「余暇」などの一般通念にたつ回答者が必要ないと考えて記入しない、あるいは、詳しく記入しなかったために、分析者があとで分類できないというような事態を避けるためである。たとえば、「畑でのお茶だし」など既存の概念では「農作業」か「家事」か判別がつかないもの、「親戚づきあい」などの「家事」か「余暇」か判別が難しいものなどもあらかじめコードが設定されていれば誤回答の可能性は低くなる。また、「車の運転」など、同じ事をしていても、「病院へ要介護者を連れて行く」場合は「介護」、「子供を塾へ送迎する」場合には「育児・教育活動」、「遠くにある畑への移動」の場合には「農作業」というように、コードが別なので回答者にコード番号を記入してもらう必要があるものもある。
- 7) ここで、「農作業がなかった日（ないし比較的少なかった日）」とは、「農作業が比較的少なかった日」と「農作業が休みだった日」の合計とした。これは、パイロット調査の結果をふまえ、①「田んぼの水のみまわり」など日々恒常的に行っている作

業があることから「農作業をまったく行わない日」を想定するのは冬季以外は現実的ではない、②「農作業が少なかった日」は「農作業を多く行った日」よりも「農作業のなかった日」により近い生活パターンを取る、といった点で農家の実態にみあった調査票の設定を企図したことによる。

なお、以上の経緯から、たとえば一般的な雇用労働の労働実態調査に比較しうる農業の活動時間として本調査のデータを用いる場合は、各項目の農作業を行った人のみの集計結果または、本調査の調査結果報告書である『塩田地区農家女性を対象にした時間利用調査集計結果報告書』（長野大学地域社会調査研究室2000年12月）にある「農作業が中心の日」のみの集計結果を使っていたきたい。また、四季別集計、天候別集計の詳細についても同報告書を参照されたい。

- 8) 「育児・介護」時間の結果にかんしては、調査対象者が高齢であったことが影響していると考えられる。そこで、上田市の若い世代の農家女性グループを対象に同様の時間利用調査を行った（現在集計中）。この結果も合わせて参照されたい。
- 9) アンケート調査の結果については、『塩田地区農家女性を対象とした時間利用調査 アンケート調査集計結果の部』（長野大学地域社会調査研究室、2000年7月）参照。